

第3章

3.2.1

C は任意定数とする .

(1) $P(x) = -\tan x$ である . このとき , $\int P(x)dx = \log(\cos x)$ (例 3.2.1 の後の注意により , この不定積分において , 積分定数や対数の真数の絶対値を考える必要はない .) よって , 求める一般解は $y = Ce^{-\int P(x)dx} = Ce^{-\log(\cos x)} = \frac{C}{\cos x}$

(2) $P(x) = \frac{1}{x^2+1}$ であるので , $\int P(x)dx = \tan^{-1} x$ よって , 求める一般解は $y = Ce^{-\tan^{-1} x}$

(3) $P(x) = \frac{2x}{x^2+1}$ であるので , $\int P(x)dx = \log(x^2+1)$ よって , 求める一般解は $y = Ce^{-\log(x^2+1)} = \frac{C}{x^2+1}$

3.3.1

対応する斉次微分方程式 $y' - (\tan x)y = 0$ の一般解は $y = Ce^{\int \tan x dx} = Ce^{-\log(\cos x)} = \frac{C}{\cos x}$ (C は任意定数) である . ここで , C を x についての関数とみなして , $y = \frac{C(x)}{\cos x}$ が非斉次微分方程式 $y' - (\tan x)y = \sin x$ の解となるように $C(x)$ を求める . このとき , 与えられた微分方程式より , $C(x)$ は $C'(x) = \sin x \cos x$ を満たさなければならないことがわかる . よって , $C(x) = \int \sin x \cos x dx = \frac{1}{2} \sin^2 x + C$ である . したがって , 求める一般解は $y = \left(\frac{1}{2} \sin^2 x + C \right) \times \frac{1}{\cos x} = \frac{C}{\cos x} + \frac{1}{2} \sin x \tan x$ (C は任意定数) である .

3.3.2

C は任意定数とする .

(1) $P(x) = 3, Q(x) = \sin x$ なので , 1 階線形微分方程式の解の公式により , 解は $y = e^{-\int 3 dx} \left(\int \sin x e^{\int 3 dx} dx + C \right) = e^{-3x} \left(\int \sin x e^{3x} dx + C \right)$ である . ここで , $I = \int \sin x e^{3x} dx$ とおくと , 部分積分法による計算により , $I = -\cos x e^{3x} + 3 \int \cos x e^{3x} dx = -\cos x e^{3x} + 3 \sin x e^{3x} - 9I$ であるので , $I = \frac{1}{10} (3 \sin x - \cos x) e^{3x}$ である . よって , 求める一般解は , $y = Ce^{-3x} + \frac{1}{10} (3 \sin x - \cos x) e^{3x}$ である .

(2) $P(x) = 2x, Q(x) = x$ なので , 1 階線形微分方程式の解の公式により , 解は $y = e^{-\int 2x dx} \left(\int x e^{\int 2x dx} dx + C \right) = e^{-x^2} \left(\int x e^{x^2} dx + C \right) = e^{-x^2} \left(\frac{1}{2} e^{x^2} + C \right) = Ce^{x^2} + \frac{1}{2}$ である . (この微分方程式は $y' = x(2y-1)$ と変形することができるので , 変数分離形として解くことができる .)

(3) $P(x) = -\frac{1}{x^2+1}, Q(x) = \frac{1}{x^2+1}$ なので , 1 階線形微分方程式の解の公式により , 解は $y = e^{\int \frac{1}{x^2+1} dx} \left(\int \frac{1}{x^2+1} e^{-\int \frac{1}{x^2+1} dx} dx + C \right) = e^{\tan^{-1} x} \left(\int \frac{1}{x^2+1} e^{-\tan^{-1} x} dx + C \right) = e^{\tan^{-1} x} \left\{ \int \left(-e^{-\tan^{-1} x} \right)' dx + C \right\} = e^{\tan^{-1} x} \left(-e^{-\tan^{-1} x} + C \right) = Ce^{\tan^{-1} x} - 1$ である .

(この微分方程式は $y' = \frac{y+1}{x^2+1}$ と変形することができるので, 変数分離形として解くことができる.)

(4) $P(x) = -\frac{1}{x}$, $Q(x) = \log x$ なので, 1 階線形微分方程式の解の公式により, 解は $y = e^{\int \frac{1}{x} dx} \left(\int \log x e^{-\int \frac{1}{x} dx} dx + C \right) = e^{\log x} \left(\int \log x e^{-\log x} dx + C \right) = x \left(\int \frac{\log x}{x} dx + C \right)$ である. ここで, $((\log x)^2)' = \frac{2 \log x}{x}$ であることに注意すると, $y = x \left(\frac{1}{2} (\log x)^2 + C \right) = Cx + \frac{1}{2} x (\log x)^2$ である.

(5) $P(x) = \frac{2x}{x^2+1}$, $Q(x) = \frac{e^x}{x^2+1}$ なので, 1 階線形微分方程式の解の公式により, 解は $y = e^{-\int \frac{2x}{x^2+1} dx} \left(\int \frac{e^x}{x^2+1} e^{\int \frac{2x}{x^2+1} dx} dx + C \right) = e^{-\log(x^2+1)} \left(\int \frac{e^x}{x^2+1} e^{\log(x^2+1)} dx + C \right) = \frac{1}{x^2+1} \left(\int e^x dx + C \right) = \frac{C}{x^2+1} + \frac{e^x}{x^2+1}$ である.

3.3.3

C は任意定数とする.

(1) $P(x) = \cos x$, $Q(x) = \sin x \cos x$ なので, 1 階線形微分方程式の解の公式により, 一般解は $y = e^{-\int \cos x dx} \left(\int \sin x \cos x e^{\int \cos x dx} dx + C \right) = e^{-\sin x} \left(\int \sin x \cos x e^{\sin x} dx + C \right) = e^{-\sin x} \left\{ \int \sin x (e^{\sin x})' dx + C \right\} = e^{-\sin x} \{ e^{\sin x} (\sin x - 1) + C \} = C e^{-\sin x} + \sin x - 1$ である. 初期条件により, $2 = C - 1$ であるので, $C = 3$. よって, 求める解は $y = 3e^{-\sin x} + \sin x - 1$ である.

(2) $P(x) = -\left(1 + \frac{1}{x}\right)$, $Q(x) = \frac{e^x}{x}$ なので, 1 階線形微分方程式の解の公式により, 一般解は $y = e^{\int (1+\frac{1}{x}) dx} \left(\int \frac{e^x}{x} e^{-\int (1+\frac{1}{x}) dx} dx + C \right) = e^{x+\log x} \left(\int \frac{e^x}{x} e^{-x-\log x} dx + C \right) = x e^x \left(\int \frac{1}{x^2} dx + C \right) = x e^x \left(-\frac{1}{x} + C \right) = C x e^x - e^x$ である. 初期条件により, $0 = C e - e$ であるので, $C = 1$. よって, 求める解は $y = x e^x - e^x$ である.

3.4.1

C は任意定数とする.

(1) 両辺を y^2 で割ると, $y^{-2} y' - 2y^{-1} = e^x$. $u = y^{-1}$ とおくと, u についての 1 階線形微分方程式 $u' + 2u = -e^x$ を得る. これを解くと, $u = e^{-\int 2 dx} \left(\int (-e^x) e^{\int 2 dx} dx + C \right) = -\frac{1}{3} e^x + C e^{-2x}$ である. $u = y^{-1}$ より, $y = \frac{1}{C e^{-2x} - \frac{1}{3} e^x}$ (または, 任意定数 C を取り

換えて, $y = \frac{3}{C e^{-2x} - e^x}$ の形の表現でもよい.)

(2) 両辺を y^3 で割ると, $y^{-3} y' + 2x y^{-2} = x$. $u = y^{-2}$ とおくと, u についての 1 階線形微分方程式 $u' - 4x u = -2x$ を得る. これを解くと, $u = e^{\int 4x dx} \left(\int (-2x) e^{\int (-4x) dx} dx + C \right) = \frac{1}{2} + C e^{2x^2}$ である. $u = y^{-2}$ より, $y^2 = \frac{1}{C e^{2x^2} + \frac{1}{2}}$ (または, 任意定数 C を取り換えて,

$y = \frac{2}{Ce^{2x^2} + 1}$ の形の表現でもよい.)

(3) 両辺を y^2 で割ると, $y^{-2}y' + y^{-1}\sin x = \sin x \cdot u = y^{-1}$ とおくと, u についての1階線形微分方程式 $u' - u \sin x = -\sin x$ を得る. これを解くと,

$$u = e^{\int \sin x \, dx} \left(\int (-\sin x) e^{\int (-\sin x) \, dx} \, dx + C \right) = 1 + Ce^{-\cos x} \text{ である. } u = y^{-1} \text{ より,}$$

$$y = \frac{1}{Ce^{-\cos x} + 1}$$

(4) 両辺を $y^{\frac{1}{2}}$ で割ると, $y^{-\frac{1}{2}}y' - 2y^{\frac{1}{2}} = x^2 \cdot u = y^{\frac{1}{2}}$ とおくと, u についての1階線形微分方程式 $u' - u = \frac{1}{2}x^2$ を得る. これを解くと, $u = e^{\int dx} \left(\int \frac{1}{2}x^2 e^{\int (-1) \, dx} \, dx + C \right) =$

$$-\frac{1}{2}(x^2 + 2x + 2) + Ce^x \text{ である. } u = y^{\frac{1}{2}} \text{ より, } y = \left\{ Ce^x - \frac{1}{2}(x^2 + 2x + 2) \right\}^2$$

3.4.2

(1) 関数 y_0 は方程式 (3.4.5) の解なので, $y_0' + P(x)y_0^2 + Q(x)y_0 + R(x) = 0$ を満たす. 関数 $y = u + y_0$ が方程式 (3.4.5) の解であるとする. $y' + P(x)y^2 + Q(x)y + R(x) = 0$ を満たさなければならないので, $(u + y_0)' + P(x)(u + y_0)^2 + Q(x)(u + y_0) + R(x) = 0$ である. 左辺 $= (u' + P(x)u^2 + 2P(x)uy_0 + Q(x)u) + (y_0' + P(x)y_0^2 + Q(x)y_0 + R(x)) = u' + (2P(x)y_0 + Q(x))u + P(x)u^2$ である. よって, 未知関数 u は方程式 $u' + (2P(x)y_0 + Q(x))u = -P(x)u^2$ を満たす. これは, $\alpha = 2$ の場合のベルヌーイの方程式である.

(2) $y_0 = ax^n$ が方程式 (3.4.4) の解であるとして, これを (3.4.4) に代入して整理すると, $x^{n+1} \{(n+3)a - a^2x^{n+1}\} = 1$ を得る. この等式は恒等的に成立しなければならないので, $n+1 = 0$ でなければならない. また, これにより, $2a - a^2 = 1$ を満たさなければならない. よって, $a = 1, n = -1$ である.

(3) 方程式 (3.4.4) は $y' - y^2 + \frac{3}{x}y - \frac{1}{x^2} = 0$ へ書き換えることができるので, リッカチの微分方程式である. (2) により, $y_0 = \frac{1}{x}$ を解の1つとして持つので, (1) の計算により, u についてのベルヌーイの方程式 $u' + \frac{1}{x}u = u^2$ に帰着することができる. 両辺を u^2 で割って, $v = u^{-1}$ とおくと, v についての1階線形微分方程式 $v' - \frac{1}{x}v = -1$ を得る. これを解くと, $v = x(C - \log|x|)$ を得る. よって, 求める一般解は, $y = y_0 + \frac{1}{v} = \frac{1}{x} + \frac{1}{x(C - \log|x|)}$ (C は任意定数) である.